

健康メモ

幼児期の発達と対応

幼児期はことばを覚え、少しずつ会話が成り立つようになり子育ての楽しさを実感するころです。しかし、その一方で、子どもの自己主張にどう対応するか、しつけはどうすればいいのかなど、悩みや疑問が増えるころではないでしょうか。各年代の発達と対応について考えてみましょう。

1歳半前後

ことばの発達は個人差が大きく、「わかるのが先で言えるのはあと」になるため、とくにこの時期、親は「話す」「話さない」で一喜一憂しがちです。ただ、発語がなくても「伝わってるな」「わかっているな」という実感がもてるようになってきます。親子の関わりや遊びの積み重ねがやがて「言えることば」になるのです。日常生活のなかでは「事前の声かけ」が大事です。毎日行われていることに決まったことばかけが繰り返されるとその行動とことばが結びつきやすくなり、ことばの理解が深まります。そして、その後の見通しがもてるようになり、子どもは安心して行動できます。



2歳のころ

2歳は自我が芽生える時期です。個人差はありますがことばで自分の要求を表すことができようになるようになります。しかし、「会話」ができるようになってきたわけではなく、自分の気持ちや要求を言うようになってきただけで、他人の気持ちはわかりません。自分の思いと相手の思いが違うということもわかりません。

とくに、このころ「イヤ。」などの否定語が多くなります。これは、そのことがイヤというよりも「指示されたくない」「言いなりになるのはイヤ」という場合が多く、それをことば通りに受け取らず、「そうか、いやなんだ」と子どもの思いを受け止め、「しかし、やるべきことはやろうね」という気持ちで上手に誘う対応が必要です。

また、「何でも自分で！」とできないのにやりたがりです。2歳代では自分がしたいことと、自分ができるところとのギャップがわからないのが特徴です。子どもの「やりたい」気持ちは大切なので、子どもが「できた！」という達成感を味わえるよう、対応しましょう。

3歳のころ

ことばの理解が進み、「大きい」「小さい」の比較やその意味、「こうだからダメ」という理屈がわかってきます。また、抽象的な表現である「あとで」はわからないけれども、「ママがこれをするまで待っててね」ということは理解できるようになります。ことばの発達が目覚ましい時期です。体験などを語り合っただけで子どものやりとりを楽しみましょう。

また、3歳前後には第2子がうまれる場合も多く、赤ちゃん返りをする子もいますし、無理してがんばっている子もいます。折に触れて、「○○ちゃん大好き」と抱きしめてあげて下さい。幼児期を通してスキンシップは大切です。



4歳以降

お約束の意味がわかりはじめるころ。日常生活で守りたいルールは、繰り返し伝えましょう。また、4歳を過ぎると、「口での反抗」の時期。この時期までに適切に関わり、振り回されないようにしていると、順調に乗り越えることができます。

(保健師 辻 留美子)

工事着工の状況

場所	工事名	施行内容	金額(円)	完成期限	施行業者
日ノ出	14線道路バリアフリー化工事(2工区)	工事延長L=192m (14線中学校グラウンド西側端～日の出道路)	28,875,000	11月30日	株 近藤組
西町	1条中通りバリアフリー化工事(2工区)	工事延長L=141m (南1丁目通り～道道幌加内線)	20,265,000	11月30日	株 浜田組
東和	林業専用道(規格相当)東陵1号支線開設工事	林業専用道東陵1号支線開設 工事延長L=900m 施工幅員W=3.0m	13,965,000	11月30日	共栄建設株
東和	林業専用道(規格相当)東陵2号支線開設工事	林業専用道東陵2号支線開設 工事延長L=1,050m 施工幅員W=3.0m	14,490,000	11月30日	株 浜田組
朝日	朝日地区不良排水路改修工事	不良排水整備 工事延長L=328.75m	5,103,000	11月30日	株 橘組
松岡	松岡地区不良排水路改修工事	不良排水整備 工事延長L=206.9m	4,305,000	11月30日	株 コンドー 興産